三鷹市立第五中学校　令和8年度【音楽】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○前年度から継続している振り返りシートは新学年でも授業の概要を抑える取り組みとして効果があった。	○授業内での積極的な発言や反応があり、音楽の学習に意欲的に取り組むことができている。 ○クラスによって歌唱のレベルに差があり、技能の習得に偏りがあることが課題である。特に、女声が自信をもって発声できていない生徒が多い。	○「簡単」「楽しい」「導入的」の３つの要素を軸にした発声トレーニングの実装を目指す。 ○3年間の螺旋状の知識の積み重ねを視野に入れながら、確実に知識や技術を積み重ねができるよう、見通しをもった授業計画を行う。 ○音楽用語や歌い方の基本など、通年で意識していくべき事項は、毎回の授業で丁寧に提示を繰り返し、定着をはかる。
第2学年	○振り返りシートの活用を通して、毎時間の授業の要点を押さえ、次の時間に思い出す習慣が定着してきている。 ○発声のトレーニングは時間や授業構成の都合から定着には至らなかった。 ○知識の指導は増えてきているが、実践的な結びつきには課題が残った。	○歌唱に前向きな生徒が多く、実技面において十分な技能を身に付けることができている。 ○鑑賞の授業では、音楽の特徴を捉える力を中心に力をつけている。一方、授業で扱った内容にとどまってしまい、汎用的な知識へ広げていくことに課題が残る。	○「簡単」「楽しい」「導入的」の３つの要素を軸にした発声トレーニングの実装を目指す。 ○歌唱においては、次のステップとして、十分な表現力を身に付けることを目指す。具体的には、曲の理解度を上げ、表現に必要な知識も一緒に身に付けることができるようにしていく。 ○鑑賞で学んだことを創作に活かしていくなど、分野を超えた汎用的な知識・技能として活用することができるよう、授業を設計する。
第3学年	○発声のトレーニングは時間や授業構成の都合から定着には至らなかった。 ○楽譜内にメモをとることで、授業ごとの課題を認識しやすくなり、継続的な学習に一定の効果がみられた。 ○生徒に親しみやすい教材については引き続き研究していく必要がある。	○進級を経て、昨年度よりも歌唱に前向きな生徒が増えた。 ○音楽記号等の知識が定着し、歌唱等の表現に繋げていけるような場面が増えた。 ○鑑賞の授業をはじめ、知識を必要とする授業において、教師による解説で授業が終わってしまい、対話的な授業ができていない。	○「簡単」「楽しい」「導入的」の３つの要素を軸にした発声トレーニングの実装を目指す。 ○鑑賞をはじめとする知識に重きをおいた授業では、教師からの一方的な授業になりやすい。グループ活動や生徒が自ら調べて発表するような形式の授業を展開し、より対話的な授業を行う。